

保育園で週1回カフェ

守谷の松山さん

守谷市本町の「まつやま保育園」に毎週火曜のみオープンするカフェがある。その名も「ねっこカフェ」。有機栽培のコーヒーや手作りスイーツなどが楽しめる。保育園の創業者でカフェ責任者の松山美法さん(69)は「保育園と地域がつながる場になれば。保護者はもちろん、さまざまな方に気軽に利用してもらいたい」と話す。

カフェは美法さんが1人、ルーなど常時約10種類で切り盛りする。有機栽培 用意。客の好みに応じて豆のコーヒー豆を使用し、エを焙煎して販売もしている。チオピアやブラジル、ペー。



カフェで接客する松山美法さん(守谷市本町)

焙煎コーヒー提供 食の安全こだわる

オープンのきっかけは食へのこだわり。同園ではグルテンフリーや化学調味料を使わない給食を提供。食育や食の安全に力を入れる中で、大人にもおいしく安全なものを味わってほしいと考えた。美法さんがコーヒー好きだったことや、訪れた人が癒やされる空間にしたい思いもあった。

都内の専門学校に半年間通って焙煎の方法やコーヒーの入れ方を一から学習。フェアトレードや環境問題についても知識を深めた。昨年4月、念願のカフェをオープンさせた。

常に心がけるのは「豆のよさを引き出すこと」。焙煎作業は調理場の脇に設置した焙煎機で美法さんが行う。仕込みや接客、片付けまで一人で担う大変さもあるが、客の「おいしかった」「他のコーヒーは飲めない」といった声が励みになっているという。

「地域の方がふらっと寄れる店になればうれしい。子育ての相談にも乗ります」と笑顔を見せる。営業時間は午前10時～午後4時(ラストオーダーは同3時半)。問い合わせは☎0297(45)88280。

(松原美美)



永作ビリンヤンさん(左)のアドバイスを受けながらタイ料理に挑戦する生徒たち(常陸太田市栄町)

自ら栽培したブドウ生徒がジュース販売

常陸太田特別支援校

県立常陸太田特別支援学校(常陸太田市瑞龍町、斎藤正校長)の生徒たちが昨年12月13日、同市金井町のスーパーマーケット「かわねやフェスタ店」で、児童生徒が育てたブドウで作った「果汁100%ぶどうジュース」(200ミリ瓶、400円)の販売活動を行った。

同日は販売開始日で、同校高等部・中学部の生徒会役員9人が販売を担当。店内の販売場所に生徒が描いたポスターなどを張り出し、店舗入り口では来場者にチラシを配布しながら、「いらっしやいませ」「いかがですか」など買い物を客らに声をかけていた。

高等部2年の井上翔太さん(17)は「自分たちが育てたブドウがジュースになってうれしい。販売は緊張したが、勉強や仕事など疲れた時に飲んでもらえれば」

同で国際理解教育を推進するのは初めてで、江目真教諭は「五感で感じてもらう」と講演に調理を組み入れた。外国を身近に感じ、国際理解を深められたのは「と話した。

自分たちが育てたブドウでできたジュースを販売する生徒たち(常陸太田市金井町)



とアピール。斎藤校長は「一から育てた作物が加工品になって販売できる体験は貴重。人に喜びを届ける経験を生かして優しい大人になってほしい」とエールを送った。

ブドウ栽培は2019年から同市瑞龍町のワイン醸造会社「常陸コミュニティデザイン」(山口景司社長)と共同で取り組むプロジェクト。児童生徒は年間を通して除草や枝切り、袋かけなどの栽培活動に取り組み、ジュースやワインに加工。同ジュースは今後、武龍ワイナリー(同市瑞龍町)で取り扱う。